



愛隣幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・

園だより

・・・・・・・・・・・・・・・・ 10.4月号

新たな出会いに心躍らせて

3月下旬に咲き始めた桜の花が、入園式の園庭に明るい光を添えてくれました。冬に逆戻りかと思わせる寒さの日も、この日のためにあったのかと自然からいただくプレゼントを嬉しく思いました。

いよいよ愛隣幼稚園の新しい歩みが始まります。3月、うちゅう組の子ども達を送り出してからまだほんの1ヶ月です。ひとりひとりの成長を喜び、別れを惜しんだ卒業式。ほっとしたのも束の間です。寂しいという感傷に浸る間もなく、新しい出会いの時がやってきました。子どもたちもきっとドキドキしていることでしょう。おうちの方たちも（特に新入園のおうちの方は）同じ気持ちでいらっしやることでしょう。私も、同じ気持ちです。でもそれは期待に胸ふくらませたドキドキです。これから繰り広げられる子どもたちの出会いのドラマに、私自身の新たな出会いにワクワクするのです。

私が先生になりたいと思ったのは保育園に通っていた時でした。（ですからその当時は保育園の先生になりたいと思っていました）4歳の時に担任だった湯浅先生（名前、覚えているものですね・・・）が好きでした。先生に憧れて、先生になりたいと思いました。小学校を卒業する時も、高校を卒業する時もやっぱり先生になりたいと考えていました。晴れて憧れの先生になった時、緊張とプレッシャーの中で、自分が子どもを好きなかどうかということが少しわからなくなりました。親になった時、（必死になりすぎたのかもしれませんが）益々、そのことに自信がなくなりました。初めて先生になった時も親になった時も、一生懸命なばかりで余裕がありませんでした。至近距離から子どもを見、向き合っていたのです。40歳になり、また先生として愛隣幼稚園で働く機会を与えられました。子どもが好きだった私を思い出しました。子どもたちに向き合う時、少しだけほどよい距離に立つことができるようになったせいかもしれません。いつもがっぷり四つに組まなくてもいられるようになりました。すると見えるじゃないですか！子どもたちの見ているもの、感じていること、考えていること。春は毎日のようにケンカが起きます。「たたいちゃダメでしょ！」「なんでいつもあの子にばかりやられちゃうの・・・」と親は思います。でも、よく見ているとこの2人、お互いに興味があるようです。一緒にあそびたいけれど、どうやって伝えたらいいのかまだわかりません。今までは、言わずともわかってくれる大人がいつもそばにいてくれました。大人はちょっと叩いたくらいでは、泣いたりはしません。でも、目の前にいるこの子は叩いたら泣いてしまいました。“えっ！なんでないちゃうの・・・”と困る子がいます。“わっ！ないちゃうんだあ！”とその反応が楽しくなってしまう子もいます。大人は 叩いたらダメ、謝るもの と思い込んでいますが、子どもたちは初めての出会いの中で、びっくりしたり嬉しくなったり、困ったり怒ったり、様々に心動かし自分に出来る精一杯のことで何とかやってみようとして試みています。ほどよい距離に立つことで、子どもたちの中で起こっていることがよく見えてきます。徐々に変化し成長する姿も見えてきます。それを見ている私自身の姿も見えてくるのです。

こんな事を書いている私ですが、自分の子どもの事となるとなかなかこのほどよい距離に立つことは難しい。でも、だからこそお伝えしたいのです。近づきすぎず離れすぎず、子どもとのほどよい距離を見つけてください。そのことが私たち親のこのドキドキを、心躍るワクワクに変えてくれると期待するからです。

でも、お間違えなく。これは子どもたちを取り巻く大人たちに期待することです。今日から子どもたちは真剣勝負です。それはたんぼぼだけでなく、ばらも、くるーばーも同じです。新しい出会いの中に繰り広げられる真剣勝負です。今年もここに立ち会わせてもらえることに感謝です。